



## 沖縄県多良間島におけるミサゴによるミフウズラ採食の観察記録

羽地邦雄<sup>1</sup>・籠島恵介<sup>2</sup>

1. 沖縄県宮古郡多良間村字塩川 116

2. 徳島県徳島市城南町 2-1-12 二軒屋住宅 2-302

ミサゴ *Pandion haliaetus* は魚類を主に採食する一属一種のタカ目鳥類である。日本では魚類以外の生物を捕食する観察記録は無く、清棲 (1952) には、「魚類を食べる」と記されている。山階 (1931) には、「魚類を食として居る・・・中略・・・欧州では渡りに際し飢えた時は鶏雛を襲う」とし、海外では陸上動物を捕食した観察事例があることを示している。

Evans (1982) は、カリフォルニア湾のミサゴの食性について、約 99% は魚類で、例外としては、コヨーテ *Canis latrans* の食べ残しを食べたのが 1 例あったと報告している。Goenka (1985) はミサゴについて、時にはげっ歯類、ウサギ *Lepus* 属、アナウサギ *Oryctolagus cuniculus*、両生類、あるいは他の鳥類を捕ると記している。Kirschbaum ほか (2008) は、米国において本種が小型の爬虫類を捕食したことを記録している。

著者 (羽地) は、沖縄県宮古郡にある多良間島 (多良間村) において、ミサゴがミフウズラ *Turnix suscitator* を採食していたところを観察した。交通事故にあつて負傷した個体を捕食したか、自ら襲って捕食していた可能性が高く、日本では記録がないと思われるので報告する。

この行動は 2014 年 4 月 29 日に観察された。天候は晴れ、波の高さは 2m で少しうねりがある。他は穏やかな気象状況であった。観察地は、沖縄県宮古郡多良間村、多良間島内西部、海岸から東側 150m ほど (図 1) に位置する夏植えサトウキ

ビ畑に沿うアスファルト農道の傍らであった。

筆者は高さ 50cm ほどの高さに積み上げられた雑草の塊の上で、ミサゴが何かを掴み食べているのを移動中の車の中から発見し、車の速度を落として慎重にミサゴから約 15m の距離まで近づいた。十数秒間観察していると、そのミサゴは足から羽毛の塊を落としながら飛び去った。飛び去った後には既に大部分が食べられた鳥類の死体が残されており、それはまだ血が乾いておらず、新鮮であった。他の捕食動物が捕ったものをミサゴが奪った可能性も考えたが、サシバはこの時期にはおらず、マングースは取った獲物はすぐ隠れて食べるので、そのような機会は無いように思えた。交通事故の可能性は否定できないので交通事故で負傷して動けなくなった個体を食べたか、自らが捕殺したものと思われた。

食べられていた鳥類は体長約 14cm で、上面は褐色で、肩羽は灰褐色と淡褐色の地に黒い細い横縞模様が入っており、黒い縁取りのある薄い褐色がかかった白玉模様があった。腹部が褐色、胸から黒い斑点が大雨覆にかけて広がっていた。

脚は太く鉛色で、趾が 3 本で蹴爪が無いことからミフウズラ類と判断された。多良間島で繁殖が確認されているミフウズラの他、渡来の可能性があるヒメミフウズラ *T. sylvatica* およびチョウセンミフウズラ *T. tanki* である可能性が考えられる。ヒメミフウズラおよびチョウセンミフウズラは雨覆に白い丸い斑点がない (Robson 2011) ことか

2015 年 3 月 7 日 受理

キーワード：ミサゴ, *Pandion haliaetus*, ミフウズラ, *Turnix suscitator*, 採食行動, 多良間島

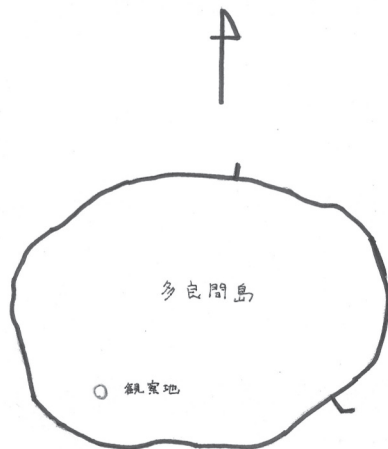


図1 多良間島 観察地  
Fig. 1. Tarama-jima Island, observation site.

ら、本個体はミフウズラと同定され、喉が黒色ではなく、幼羽が無いことから雄成鳥と思われた。

死体の羽毛(図2)を採取し計測値を計ったところ、初列風切羽4枚は、長さ64-68mm、幅10-15mmであった。これは笹川ほか(2012)による計測値、長さ65-70mm、幅10-15mmの範囲内である。なお、肩羽-雨覆は長さ35-60mm、幅13-22mmであった。

ミサゴと思われた個体はトビ同大で初列風切の先端が分かれていて、かぎ型の嘴を持つことから大型のワシタカ類と判断され、白黒のコントラストと黒い過眼線と短い冠羽からミサゴと判断された。性別年齢は不明である。

これら2種鳥類の特徴は清棲(1952)に記述された両種の形態に一致する。

多良間島に在住の住民2名からの聞き取りによると、この島ではミサゴは通常魚類を捕食するが、ミフウズラのみならず、げっ歯類の捕食も見られたことがあるとのこと(羽地聴取)。海岸線から500m以上離れている牧草地の木にミサゴがよく

止っており、そこからネズミを襲うことがあるとのことであったが、採食までは見ていないとのこと。捕食されていたネズミの種類は不明であるが、著者(羽地)は、島内でクマネズミ *Rattus rattus*、ジャコウネズミ *Suncus murinus*、および島民に「ギツナ」と称されている小型のネズミを観察している。

多良間島ではミサゴは普通種で「タギタ」と称され、秋冬期に多いサシバ *Butastur indicus* は「タカ」と称され、両者は明確に区別されている。また、高齢の島民は一般的に渡り時期に衰弱したサシバを捕獲して食料にした経験があることから、ミサゴ、サシバおよびそれ以外の猛禽との識別は可能と思われ、その信憑性は高いと思われた。

この島は大きな川が無く、魚類を捕食できる大きな天然の淡水池はない。港湾は小さなものが2箇所のみである。餌場の多様性が比較的少ない反面、広大な牧場やサトウキビ畑があることが陸上生物を捕食する原因かもしれない。またミフウズラは筆者(籠島)の経験上、1週齢の鶏の雛とほぼ同じ位の大きさであり、海外でも鶏の雛の捕食事例があることから、ミサゴにとって手ごろな大きさなのかもしれない。

今後は、どのような陸上生物の捕食を、どれくらいの頻度で行っているのかについても調査していきたい。

高橋伸夫氏および大城亀信氏にはそれぞれミサゴ、ミフウズラの生態についてご教示頂いた。査読者の方々からは有意義なアドバイスを頂いた。深く感謝申し上げる。

## 引用文献

- Evans, D. L. 1982. Status Reports on Twelve Raptors: Special Scientific Report. Wildl. 238. U. S. Dept. Interior, Fish and Wildl. Serv.  
Goenka, D. N. 1985. The Osprey (*Pandion haliaetus*)



図2 食べられていた鳥類の羽毛の一部

Fig. 2. A part of feathers of the carcass.

*haliaetus*) preying on a Gull. J. Bombay Nat. Hist. Soc. 82 (1): 193–194.

Kirschbaum, K., & Watkins, P. (2000). *Pandion haliaetus*. (オンライン), Animal Diversity Web. Available at <[http://animaldiversity.ummz.umich.edu/site/accounts/information/Pandion\\_haliaetus.html](http://animaldiversity.ummz.umich.edu/site/accounts/information/Pandion_haliaetus.html)> Accessed October, 16, 2008.

清棲幸保. 1952. 日本鳥類学大図鑑. 講談社, 東京

Robson, C. 2011. *A Field Guide of South-East Asia*. New Holland Publishers, London•Capetown•Sydney•Auckland.

笹川昭雄・山階鳥類研究所. 2011. 決定版 日本の野鳥「羽根図鑑」. 世界文化社, 東京.

山階芳麿. 1941. 日本の野鳥と其生態第二巻. 岩波書店, 東京.

## Osprey eating a Buttonquail in Tarama-jima Island, Okinawa Prefecture, Japan

Kunio Haneji<sup>1</sup> & Keisuke Kagoshima<sup>2</sup>

1. 116 Aza-shiokawa Tarama-son, Miyako, Okinawa, Japan

2. 2-302, 2-1-12 Jonan-machi, Tokushima-shi, Tokushima, Japan

An Osprey was observed to eat a Buttonquail beside a sugarcane field in Tarama-jima Island, Okinawa Prefecture on April 29, 2014. After a while the hawk suddenly flew away. It is likely that Ospreys sometimes capture Buttonquails in this island because this island is lacking in diversity of foraging habitats suitable for them. No food items other than fish have been reported for Ospreys in Japan apart from this report.

*Keyword: Osprey, Pandion haliaetus, Buttonquail, Turnix Suscicator, Forage, Tarama-jima island*